

労働保険事務

おまかせ下さい

—(一社)大森工場協会—  
—労働保険事務組合—

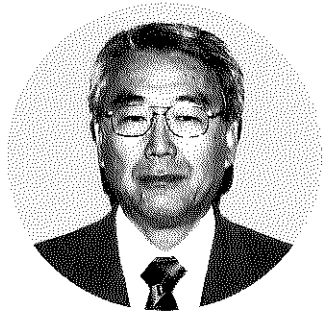
一般  
社団  
法人

# 大森工場協会会報

第73号

平成25年 8月 1日

発行 一般社団法人 大森工場協会  
編集委員会  
東京都大田区中央2-11-10  
TEL 03 (3771) 4744  
印刷 城南印刷工業株式会社  
TEL 03 (3752) 3391



## 暑中お見舞い

## 申し上げます

一般社団法人大森工場協会会長  
(株)昭和製作所 代表取締役会長  
舟久保利明

本年度に入り、日本経済は「脱デフレ」に向けて日銀・政府一体となり活発に動きはじめております。

現状として、株価や円相場は不安定な値動きが続いている状況ですが、個人消費が堅調で、企業が生産活動を活性化させ、雇用・所得も改善しつつあるという好循環が徐々に実体経済に波及してきているとの認識があります。

しかしながら、景気がいま一つパツとしないのは、日本だけでなく、世界中の経済が不景気の只中にあるからと言われています。その根本の原因は、市場経済が過剰生産により機能不全になっていることにあります。更に言えば、実体経済と無関係なファンドと称する妖怪が、世界経済を引つ掻き回している事実があります。と言っても、我々はその日その日を生きていくわけですから、他人事の話ではすみません。

わが国では政権が代わり、そのこと自体の期待と共に、三本の矢を柱とする「アベノミクス」の内容が発表されましたが、私の個人的感想は、6/17発行の日刊工業新聞の一面に掲載された意見の通りであります。

政策の重要なところは、企業にとっては全く当たり前のことですが、その効果を調査し、その評価を行い、その後の政策を修正または新規立案するという、「P.D.C.A」のサイクルが不可欠であると考えます。しかし、全て

の補助金に共通して言えることは国家で行うそのサイクルが欠如しているということです。

宇宙飛行士の毛利さんが、財務省の役人と話して、「補助金は、お金をどぶに捨てる際、役人に、「補助金は、お金をどぶに捨てるようなものだ」と言われたといいます。当たり前です、これまで補助金の評価は、役人も政治家も評論家も言及してきませんでした。色々な要素が混在し経年調査は難しいからというのその理由です。しかし、企業の場合、研究開発に関して垂れ流しでやっていけば確実に倒産します。

今後の日本がどうなるのかも新しい産業分野の開発が絶対に必要です。そのためには、一企業でなく、国全体で取り組む必要があります。たとえ補助金が、どぶに捨てる結果になるうとも、評価・検証は不可欠です。助成金は書類が煩雑で我々中小企業が獲得するにはハードルが高いのはやむを得ないところもあります。少なくともそのお金が我々の暮らしや産業にとってどのような効果があり、今後どうなっていくのかを知りたいものです。要は、今後の中小企業の行方は一企業の自助努力のみならず、行政側からの支援なくして成り立たないのも事実と考えます。行政と区内中小企業がしっかりと連携・協力して困難に立ち向かう、まさに官民一体の姿こそ重要と思われれます。

## 一般社団法人 大森工場協会 第68回定時社員総会を開催



一般社団法人大森工場協会の定時社員総会が五月二十三日(木)、大田文化の森で開催された。

今総会は昨年四月一日公益法人制度改革にもともなう一般社団法人への移行後、新生大森工場協会としてスタートし、実質一年間の事業活動を行ってきた結果の総会となり、今期で六十八回となる。

当日は、協会会員各位のほか、大田区から野田隆副区長他多数のご来賓のご臨席をいただいて盛大な総会となった。

冒頭で舟久保利明会長は「(一社)大森工場協会定時総会も今年で六十八回を迎えるが、顧みると協会企業の世代交代も順調に成し遂げられている。しかしながら、以前にも増して経営環境が変化しつつあり、足が地に着いた厳しい経営が必要であるとの認識を強く持ち、モノづくりにおいては速く、安く、良い物を作ることが必要である。その為には情報交換を大切に、皆が「心・力」を合わせ、協力のもと一緒に勉強し頑張っていくことが重要である」と挨拶した。

総会議事では、舟久保会長を議長に、事務局長の司会で、平成二十四年度事業の決算報告がなされ、さらに平成二十五年度事業計画、予算計画の審議が行われ満場一致で承認された。

総会後懇親会が行われ、ご来賓の方々の祝辞として「大田区モノづくりの優れた技術は世界に対して、優位性を保っている、それらの優れた技術が失われることなく、技術を活す

新しい仕事や獲得する形を見つけて出し役に立てるよう努め、自分のものにしていく歩みを大切にしていきたい。そのためにも行政面でも積極的に協力していきたい。」

「近年、ものづくりに対する企業間連携、行政との連携強化が表面化している。大田区内企業の一つ一つの技術力の高さ、団結力の強さがものづくり研究・開発への意欲、多様化するニーズに応えることができる、行政も一緒になって積極的に情報提供を行い、いろいろな知恵を出し協力していきたい。」

伊東博巳(公財) 大田区産業振興協会専務理事は「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金の活用に触れ「下町ボブスレープロジェクトを立ち上げ、ボブスレー技術への補助金も確保することができた、ソチオリンピックに向け製作準備が整えつつあり、大田ブランドを高めるチャンスでもあり、大いに期待している。」

多くの企業が自社を見つめ直し、新たな経営計画を立てる際、応募に積極的に参加し設備投資や人材育成のためにも補助金制度を大いに活用し役立てて欲しい。

新たなチャレンジへのお手伝いを積極的に行っていきたい。」

鈴木あきまさ都議会議員は「中小企業(町工場)には景気回復の波がまだまだ戻ってきていない現状であるが、ものづくりにたいする基盤技術、産業集積を守ることが重要であると考えている。中小企業が発展しようとするために必要な人材育成のあり方、諸条件等を勘案しつつ都政に反映させていきたい。」

# 祝50周年

# YMクラブ50周年を迎えて

(株)上田製作所 代表取締役

YMクラブ幹事長 上田 大輔

当クラブは、一般社団法人大森工場協会に加盟している企業を対象とした、ものづくりの街大田区の大森地区を中心に活動している団体です。

職業人として優秀な労働者を養成し、職業の安定と労働者の資質向上を図るとともに、経済及び社会の発展に寄与する事を目的に1963年(昭和38年)に次代の継承者グループによって創設されました。

仕事や遊びを通して外を知り中に生かすという基本方針の基、現在も変わることなく後輩に受け継がれ活動しています。スローガンは「Challenge of Spirit」常に挑戦し続けることを目指して日々頑張っております。

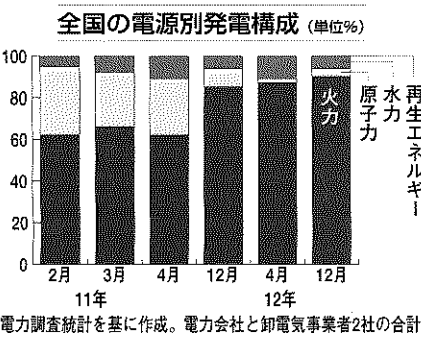
そして今年創設50周年を迎えることとなりました。これもひとえに歴代の幹事長、会員の皆様、大森工場協会事務局の皆様方、ご支援いただきま

した多くの方々の賜物と深く感謝する次第でございます。

現在の会員数は 44社となっております。会員の多くは2代目、または3代目となっております。その中には先代もYMクラブの会員であった企業も多くあり、クラブの歴史の長さを感じます。

現会員も、ものづくりの精神を先代から受け継ぎ更なるものづくりの発展を目指し日々努力しております。

時代とともにものづくりの手法は設備の機能向上と比例し、日々進化し便利になっていっております。しかし根底にある「いいものを作りたい。」という気持ちは今も昔も変わりません。今後のYMクラブも時代とともに色々な活動をしていくと思いますが、ぶれずに挑戦し続けることを忘れずに活動してまいります。



## 知ったか2題

東京メートル(株) 代表取締役  
上杉 信雄

日本はエネルギーを100%輸入に頼っている事を皆様は毎日の生活で本当に自覚していますか。

石油・都市ガス・プロパンガス・

電力の燃料(石炭・天然ガス・ウラン)のほとんどが大型タンカー等で運ばれて来るが、それも支払すれば来る単純なものではなく、航路の安全を米軍が守っているからです。

電力については別表日刊工業新聞のグラフを見てください。

一般人はマスコミ等に盛んに出たり議員や評論家が自然エネルギーに力を入れるように云っていますが、再生エネルギーはここ20年間で大幅に進んだの

に全体から見ればゼロに等しいのです。将来進歩しても全く問題外の割合です。エネルギーは0.0何秒たりとも止められないので政府や経済界トップは言葉は悪いが、風力・太陽光発電等は国民向けパフォーマンス程度でしかなく、毎日の現実維持に必死です。

話しは変わりますが高齢の人は「お若けえのお待ちなせえ〜」のセリフを聞いたたり使ったりしてました。これは鶴屋南北作の芝居「浮世柄比翼稲妻」(うきよづかひよくのいなすま) 鈴が森の場に出きます。

江戸時代は美原通りあたりのチョロツと人家有る所過ぎると東海道も雑木だけのさびしい景色で、鈴が森刑場あたりは波打ぎわで、雲助がたむろして通行人を襲ったりしていた。

国を追われた前髪立ちの美少年白井権八が雲助とチャンバラしたあと、するがや通りの海苔茶漬を食いに江戸より駕籠(ハイヤー)を仕立てて来た男伊達の幡随院長兵衛が通りがかり声をかけるが、芝居の正しいセリフは「お若けえの待たっせえやし」です。



## 娘とサッカー

(株)キョウエイ 代表取締役  
阿部 雅彦

中学2年生の娘がサッカーを始めたのが5年前、小学3年生の時に少年サッカーチームに入会したのがきっかけでした。

娘は生まれつき聴力に障害を抱えており、健常者の子供達の中、更に男の子が中心の中でうまくやっつけられるのか、親としての不安が多々ありましたが、仲間やコーチ、スタッフにも恵まれ、小学校卒業までそのチームでお世話になる事ができました。

日本女子サッカー界の課題ともなっていますが、中学生になると女の子がサッカーを続ける環境の場が限られ、そのままやめてしまうケースも多いといえます。

特に娘の場合は障害もあり、良い返事を頂けないチームもありましたが、快く受入れて頂けたクラブチームも見つかり、今でも大好きなサッカーを続けさせる事ができています。

時間があれば私のフットサル(5人制サッカー)に混じり一緒にボールを蹴っていますが、子供のの上達振りには驚きを隠せません。

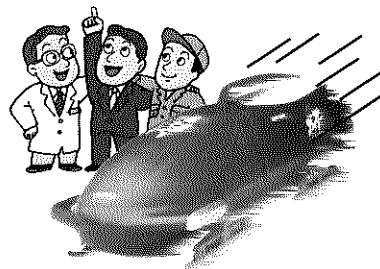
娘にはまだまだ負けないうもりと思っていますが、追い越されるのも時間の問題ですね。

好きなものに夢中になっている子供の姿は親として嬉しいものです。

今後できる限りの応援をしていきたいと思っています。

## 下町ボブスレーネットワーク交響曲

(有)大野精機 大野 和明



今、優れた技術と心意気を持つ大田区中小企業のシンボルとして、下町ボブスレーが話題となっています。大田区の町工場は金属シャーシ部分を製作しますが、大田区の中小企業からすると普段の技術の延長で力を発揮できる分野であり、地道に作り上げてきたネットワークをわかりやすく内外にPRできるのが下町ボブスレーだといわれています。

金属加工は切削と板金では設備や道具が全く異なる上、切削加工ひとつとっても大きさや素材や用途によっても得意分野が異なります。さらに金属製品を作り上げるには熱処理や表面処理などで付加価値を高めていきますが、大田区内には自転車はもちろん、歩いていける距離にそれらの得意分野が異なる工場が集まっており、日常的に技術交換や情報交換をして連携を深めています。

中小企業のネットワークによって初の国産ボブスレーという製品を生み出すには、設計者と製作者は優れた交響曲を奏でるオーケストラの作曲者と演奏者のように、役割の異なる両者の分業で一体となる必要があります。例えばモーツァルトやベートーヴェンが作曲(設計)した曲を演奏(製作)するオーケストラは、譜面(図面)どおりに演奏するだけだから創造性が低いということはありませんし、製作者(演奏者)が優れていても、設計者(作曲者)が優れた設計をしなれば、いい技術は活かされないとも言えます。

下町ボブスレーが正式に採用され世界の舞台で活躍すれば、大田区中小企業が日常的に行なっているネットワークによるものづくりを世界にアピールできる絶好の機会になります。ソチ五輪ボブスレーコースの氷の壁を高速で滑走する音が、下町ボブスレーネットワークオーケストラの奏でる交響曲として世界に響くことを願っています。

会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。今年も恒例の待ちに待った納涼会の時期がやってきました。今回は、ハワイアン・バンド「アウトリガー」による生演奏で楽しんでいただきたく企画いたしました。蒸し暑い夏の夕べのひと時を冷たい生ビールでハワイアンを楽しみながら、会員並びにご家族、従業員皆様お誘いのうえ、ご参加いただきお過ごしなされては如何でしょうか。多数のご参加をお待ちしております。



# 納涼会のご案内

Y M (一社) 大森工場協会 共催  
K L クララブ

1. 日時 平成25年 8月 23日 (金) 午後6時30分~
2. 会場 大田文化の森 5階 多目的室
3. 参加費 3,500円
4. 申込み 平成25年8月12日(月)までに、会費を添えてお申し込み下さい。  
振込先 東京都民銀行 大森支店  
普通預金 0204767  
一般社団法人大森工場協会
5. 入場券 受付にてお渡しします。お弁当と引き換えて下さい。
6. アトラクション

## ハワイアン演奏 アウトリガー

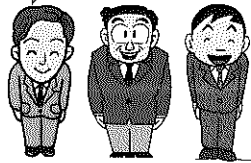


ハワイアン演奏にはギター、ウクレレ、ベースといった楽器が主流ですが、アウトリガーはビブラフォン(打楽器)を使用し、メンバーによるハーモニーに加え、楽器が奏でる素晴らしいメロディーは大変定評があり、業界屈指の存在です。現在は都心を主な拠点として活動しています。ちなみに「アウトリガー」とは、カヌーに利用されている「浮き」が由来です。

メンバー紹介

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 乙黒 ギター    | 長谷川 スチールギター |
| 小泉 ベース    | 村松 ウクレレ     |
| 笹木 ビブラフォン |             |
| フラ 2名     |             |

### わが社紹介



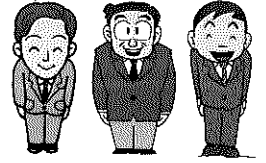
#### (株)マサオプレス

(株)マサオプレス 常務取締役 宮澤 淳

株式会社マサオプレスは産業用金物の金属加工で特に配電盤、分電盤、キューピクルなどの密閉用筐体に欠かせない「蝶番」「錠前」「ステー」「ハンドル」などの部品を中心に建機部品、トラック部品などを製造しており、各種金型設計製作・試作開発・プレス加工及び板金、溶接、表面処理、組立を行う金属プレスメーカーであり、量産はもちろん、試作一個からの対応も積極的に受注しており、小ロット生産のレーザー加工から量産生産のプレス加工と数量に応じた生産体制

を構築し、取引先から「困った時のマサオプレス」と高い評価をいただいております。しかし時代の流れ、変化に対応できない企業は生き残れない昨今、常にお客様が求めていることに対してまずはできる限りの対応をする。その先は自らがお客様に満足していただける提案をしていくことが海外企業に負けない強い企業に成長するために必要だと思います。株式会社マサオプレスは、新しい金属加工技術、新しい分野に挑戦することが、当社とおお客様の未来を切り開く鍵と考えており、お客様のご要望があれば既存の枠にとらわれることなく、一緒に考え斬新な手法で、道を切り開いていきたいと考えています。大田区をはじめ日本の技術で世界に挑戦していきたいです。

### わが社紹介



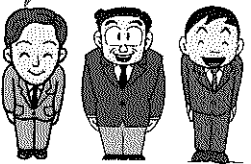
#### (有)東蒲機器製作所

主要品目としたしましては、土木アンカー用頭部部材の製作、建機・土木用油圧ジャッキの製作及びメンテナンスなど、広く建設・土木業界に納入させていただいております。他、鉄道車輛用油圧緩衝器部品・鉄道架線用部品の鍛造素材加工等、鉄道業界のお客様へのお取引、また研究機向け特殊モーター用部品の鍛造加工等も多くなってきております。弊社加工品の使用施工例をいくつかご紹介致しますと、土木分野に於いては「横浜ベイブリッジ」やJR蒲田駅東口にあり「ニッセイアロマスクエア」、最近では「大田区総合体育館」にも弊社の加工品が使用されております。因みに世界一の電波塔「東京スカイツリー」の建設にも弊社の加工品が使用されました。また、鉄道車輛に於きましては国内の新幹線各車輛や新型の成田エクスプレスの在来線、遠くは中国や台湾の高速鉄道にも弊社の加工品が使用されており、多くの皆様の安全な旅のお手伝いをさせていただいております。様々な加工実績を記してまいりましたが、弊社が大事にしている一つの企業理念があります。それは、「広く社会の皆様と共に」「想造力」「想像」と「創造」を組み合わせたモノづくり」でお応えしていく、ということです。長年培ってきた経験と実績とお客様の「？」をカタチにしています。昨年の政権交代により誕生した第二次安倍晋三政権が推進を進めるいわゆる「アベノミクス」の効果で景気浮揚感が高まりつつありますが、弊社はしっかりと時勢を見つめ、地に足をつけて日本の製造業の「縁の下の力持ち」的な企業を目指して参ります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

弊社は、終戦間もない昭和二十八年に私の祖父である初代社長によって、大田区蒲田に工作機械修理会社として産声をあげました。当時はジャムの梱包機から航空機の部品まで、手先が器用な初代がいろいろな分野の工作機械の修理に携わっていたと聞いております。初代から現社長である父に代が変った際、修理・組み立てが主だった業務形態を金属加工業に転換、平成に入り新潟県西蒲区(旧西蒲原郡巻町)に工場を設立し現在に至ります。おかげさまで、今年創業六十周年を迎えることができました。事業内容としては、汎用旋盤・フライス盤・NC旋盤・マシンングセンタ等を使用した金属切削加工を主とし、変種変量の難加工、各種試作品や治工具の製作等機械加工全般に携わっております。

(有)東蒲機器製作所 営業技術課長 高橋 俊樹

### わが社紹介



#### (有)関鉄工所

(有)関鉄工所 専務取締役 関 英一

昭和26年5月に先代の関松三郎が設立して今年で63年になります。当時、他所に勤めていた松三郎は会社を興したいと思い、どうにか工面してモーターを購入、ベルト掛けの旋盤を回し始めたのが最初です。現在は松三郎が仕事をしていた場所は倉庫として使っておりますが、今でもベルト掛け機の名残で天井にはモーター、シャフト、プーリーなどがひっそりと当時の状態で設置されたままになっており、それを見る度に私の中では「梅ちゃん先生」や「三丁目の夕日」時代の古き良き当時の賑やかさを想像します。

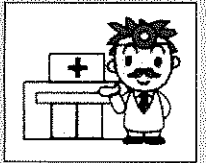
現在の弊社は主に食品や容器製造に関わる自動機械装置の部品を作っており、機械装置に関わりのある、あらゆるものを手配しております。社内では大型のフライス、横中線り切削加工機を持ち、装置のベースとなる大型の部品から末端部の小型の部品まで加工しています。また、部品納めでは無く、機械装置として組んで納める場合は、社内外に手配した部品一式を揃え、組立技術員による自動機械装置の組立を行ないます。お客様に納めてしまった機械装置は製造ラインに組み込まれる為、組立を行なう技術員は日本全国出張に行き、機械のメンテナンス、修理なども行なっています。

大田区は様々な内容を行なっている会社の集積地ですので、たくさんのお客様に御世話になっております。これからは社員全員、周りの会社様と切磋琢磨し、日々精進して参ります。





# 労働保険事務組合をご存じですか？



「労働保険料の徴収等に関する法律」に基づき、厚生労働大臣が認可した団体で、本来事業主が実施すべき労働保険事務（雇用保険・労災保険）を、事業主にかわって行なうことができる団体のことを言います。

当（一社）大森工場協会もこの制度の認可を受け、協会の一大事業として、会員各位の経営管理の一翼を担っております。

## 労働保険事務組合に委託できる事務は

雇用保険・労災保険の加入手続きから、労働者を雇用した場合の届出や、労働者が離職した場合の届出、その他保険料の納入に至るまで、労働保険全般にわたり事業主にかわって手続きします。

その主要なものは、次のとおりです。

- ①概算保険料、増加概算保険料、確定保険料の申告、納付
- ②保険関係成立届（雇用保険・労災保険の加入）、任意加入の申請手続き
- ③労災保険の特別加入申請・変更・脱退等の手続き
- ④雇用保険の被保険者に関する届出等の提出手続き
- ⑤その他、労働保険の適用徴収に関する申請、届出及び報告等の手続き

## 労働保険事務組合に委託するには

至って簡単、当事務組合に申し出ただき、「労働保険事務委託書」に記入していただくだけで、委託手続きは終了です。

## 労働保険事務組合に委託した場合のメリットは

- ①煩わしい事務処理が不要になり、事業主の事務負担が軽減されます。また、委託料も低く設定されているので経費負担も節減できます。（概算保険料額の5.5%）
- ②労災保険に加入することがきかない、事業主や会社役員、家族従業員等も特別に加入することができます。（月額最高60万円の労災補償）
- ③労働保険料は、金額の多少にかかわらず、年3回に分けて納入することができます。

**お申し込・相談窓口**

## 労働保険のことなら、何でも！

（一社）大森工場協会 労働保険事務組合へ  
TEL 03-3771-4744 FAX 03-3772-9340

# 「とうきょう共済」の火災共済・自動車共済 ご加入のご案内

協会では会員に対する福利事業として、とうきょう共済の代理所となって火災共済保険と自動車総合共済への加入をお勧めしております。平成24年度末現在の火災共済の加入状況は、77件、22億8,990万円の加入をいただいております。皆様すでにご承知いただいているところですが、「とうきょう共済」は、他の損保の保険等とは異なり、中小企業のみを対象として、共済の観点からも利益の追求を目的としない仕組みとなっております。

とうきょう共済の担当者と協会が一体となって、サポートをしています。是非ご検討をいただくよう、よろしくお願い申し上げます。

## 火災共済

1. **非営利団体のため安い掛金**  
一般の火災保険に比べスリムな掛金の為、経費節減が出来ます!! ※条件により異なる場合があります。
2. **剰余金を還元**  
決算の結果、剰余金が生じ、その契約が無事故の場合、利用分量配当で還元致します。  
(平成24年度5%配当割戻し!)
3. **万一のときも、共済金の支払いは迅速かつ有利**  
※事故の内容により、お時間を頂く場合があります。
4. **協会が窓口（代理所）ですので安心**  
中小企業者専門の都内唯一の共済組織です。

## 自動車総合共済

1. **国内損保よりも掛金が安く経費の削減**  
※条件により異なる場合があります。
  2. **自動車保険の無事故割引はそのまま継承**
  3. **各種お得な割引**
  4. **早くて親身な事故処理サービス**  
★万一の事故の場合、事故処理の専門家が迅速に相手と対応します。  
★加害事故では最後まで示談交渉を行います。また被害を受けた事故の場合は、解決へのアドバイスを致します。
  5. **特別の見舞金制度**  
(対物事故で3万円以下支払いは、翌年の掛金は上がりません。)
- (元受 全国中小企業共済協同組合連合会)

〒104-0061 東京都中央区銀座2丁目10-18  
東京都中小企業会館2階

TEL 03(3542)0271  
FAX 03(3545)8606  
URL <http://www.tokyo-kyosai.or.jp/>

# とうきょう共済

東京都火災共済協同組合  
東京都中小企業共済協同組合

## 【編集後記】

夏を象徴する花といえ  
ばアサガオ、ひまわり、  
百日紅等様々ですが、咲  
き誇る色とりどりの花を  
見ていると、何故か心が  
和むものですね！  
今年八月七日が二十  
四節気の「立秋」、八月  
二十三日が「処暑」とな  
ります。「立秋」は暦の  
上では秋の始まりとされ、暑さも峠  
を越し涼風が立ち始め、朝露が草葉  
に結び、ヒグラシが鳴き始める時節  
に「処暑」は暑さが収まるということの  
ようです、実際には残暑が厳しく秋  
の訪れを実感するにはほど遠いよう  
ですね。

高齢化時代が進む我が国ですが、  
プロスキーヤー三浦雄一郎さんが八  
十歳の年齢で、しかも不整脈の持病  
（二回の手術を経験）を持ち世界最  
峰エベレスト（八八四八メートル）  
に登頂成功の偉業を成し遂げたこと  
は、世界に配信されました。不屈の  
精神と悪い環境下でも冷静に判断で  
きる力を持ち合わせる行動が沢山の  
人々に感銘、勇気と挑戦しようとし  
る力を与えたことでしょう。  
本年に入り、日本経済はアベノミ  
クス効果に期待を寄せ、デフレ脱  
却に向けて順調に推移しているよう  
ですが、中小企業経営にとっては今  
なお効果が表れてきていないと、言い  
難い情勢です。そのような中で、今  
日区内企業においてモノづくりの技  
術力を活かした「下町ロボスレー  
プロジェクト」、「医工連携プロジェ  
クト（区・東邦医大等・区内工場の連  
携協定）」が大変注目されてきてい  
ます。

下町ロボスレーは来年二月開催さ  
れるソチオリンピックに使用する  
産初ロボスレーの製作であり、当協  
会会員数社がプロジェクトに参加し  
ており、医工連携にいたっては、  
今後ますますの高齢化社会を見据え  
ての、医療関連機器、産業ロボット  
等（介護ロボットなど）の研究・開  
発の分野です。まさに、次世代に技  
術を担う後継者、若手人材の台頭が  
必要となる。工匠の高度な技能を  
集結して区内の産業振興に貢献でき  
るプロジェクトであると思われま  
す。

工場協会の会員企業の幅広い活動と  
悠久なる発展を強く祈るばかりです。  
協会では、会報を利用しての自社  
紹介（PR）や会員同士の情報交換  
相互親睦、会員同士のメリットを認  
めるうえで重要な媒体と位置づけ  
ています。会員企業の皆様の積極的な  
投稿、活用を心より望んでおります。  
(一) K (記)